

野菜散布用殺虫剤

# ベネビア® OD

powered by  
**CYAZYPYR®**  
ACTIVE INGREDIENT

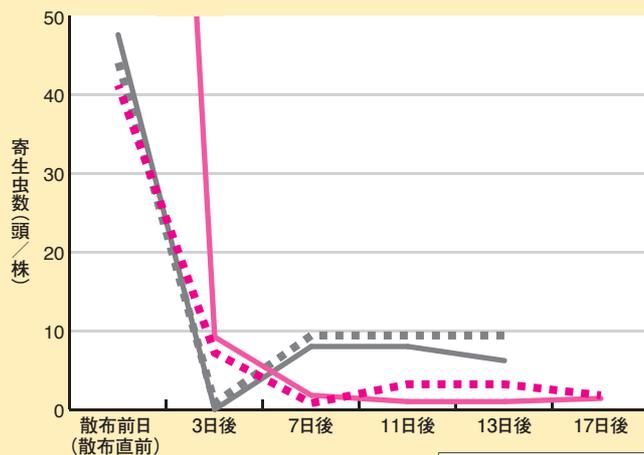


ネギアザミウマの被害に負けない。  
綺麗なねぎを作るために、  
ローテーションの1剤として  
ベネビア® ODを使う。



- ベネビア® ODは、ねぎのネギアザミウマ防除において約2週間の残効と高い防除効果が期待できます。
- 虫がいなくなるまでは少し時間がかかりますが、食害停止は速効的です。

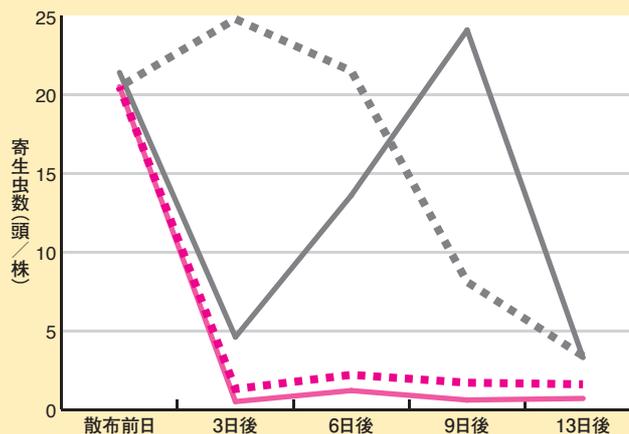
## ネギアザミウマに対する効果【春日部農林振興センター】



対象作物：ねぎ  
試験地域：白岡市下野田  
処理月日：ベネビア® ODは7月8日  
A剤は7月12日に処理

処理方法：動力噴霧器による散布  
栽培概況：2016年3月20日定植、8月下旬以降に収穫予定  
調査日：7月8日(散布前)、11日、15日、19日、21日、25日に調査  
調査方法：各区10株の3葉に寄生しているネギアザミウマを計数  
展示区(30a)：ベネビア® OD：2000倍、100 ℓ / 10a  
対照区(20a)：A剤：5000倍、100 ℓ / 10a

考察：8月中旬からのねぎの出荷に備え、仕上げの防除を始めるタイミングで試験を行った。供試薬剤の散布により、ネギアザミウマの密度を低く抑え、新たに展開したねぎの葉は食害痕が発生せず良い状態を維持できた。対照薬剤に比べ残効が長く、効果は高いと考えられる。薬害は見られなかった。



対象作物：ねぎ(夏扇4号)  
試験地域：越谷市中島  
処理月日：2016年9月3日

処理方法：動力噴霧器による散布  
栽培概況：2016年5月20日定植、2017年1月以降収穫予定  
調査日：9月2日(散布前)、6日、9日、12日、16日に調査  
調査方法：各区15株の2葉に寄生しているネギアザミウマを計数  
展示区(9a)：ベネビア® OD：2000倍、100 ℓ / 10a  
対照区(1a)：無処理

考察：9月上旬のネギアザミウマの発生は年々低減傾向であった。ベネビア® ODによるアザミウマの殺虫・発生抑制効果は高く、その数は散布後13日までで成虫で最大2.2匹、幼虫で1.2匹と無処理区と比較しかなり少なかった。散布後13日までアザミウマは成虫数、幼虫数ともに低く推移していたことから、ベネビア® ODの残効は長いと考えられた。また、葉害の発生は見られなかった。

■ **ねぎでの混用事例** ベネビア®ODを殺菌剤、展着剤、殺菌剤×展着剤の組合せでの混用をねぎで確認しました。

▼ **殺菌剤**

2019年7月5日現在

薬剤名		
アフエット(FL)	スミレックス(水)	ベルコート(水)
アミスター20(FL)	ダイアメリット(DF)	ペンコゼブ(FL)*
アリエッティ(水)	ダコニール1000(FL)	ベンレート(水)
オンリーワン(FL)	テーク(水)	ポリオキシシンAL(水)
カンパネラ(水)	トップジンM(水)	ポリベリン(水)
サブロール(乳)	バイオキパー(水)	ラリー(水)
ザンプロDM(FL)	バリダシン5(液)	ランマン(FL)
ジマンダイセン(水)*	ファンタジスタ(WG)	リドミルゴールドMZ*
スターナ(水)	フルピカ(FL)	レーバス(FL)
ストロビー(FL)	ベトファイター(WG)	ロブラール(水)

【記号の説明】

(乳)	乳剤	(DF)	ドライフロアブル剤
(水)	水和剤	(FL)	フロアブル剤
(液)	液剤	(WG)	顆粒水和剤

\*老化等の軟弱苗には軽度のへこみ等の症状が発生することがある。

※本表は実施した試験をもとに作成しておりますが、品種、栽培条件、使用濃度、使用時期などにより結果が異なる場合があります。したがって、「薬害がない」ということを保証するものではありません。あくまでも混用知見の一例として考えていただきますようお願いいたします。

▼ **展着剤**

薬剤名
K.Kステッカー
アイヤーエース
アビオンE
アプローチBI
グラミンS
ササラ
スカッシュ
ニーズ
ブラボー
ブレイクスルー
まくぴか
ミックスパワー
ラビデン3S
ワイドコート

▼ **殺菌剤×展着剤**

殺菌剤
アフエット(FL)
ジマンダイセン(水)
スミレックス(水)
スターナ(水)
トップジンM(水)
バリダシン5(液)
フルピカ(FL)
リドミルゴールドMZ
レーバス(FL)
ロブラール(水)

×

展着剤
アプローチBI
ササラ
ニーズ
ブレイクスルー
ミックスパワー

これらのどの組合せも確認済みです。問題ありませんでした。

■ **適用害虫と使用方法** (適用表から一部抜粋) (色文字が適用拡大部分)

2019年9月25日現在

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニプロールを含む農薬の総使用回数
ねぎ	シロイチモジトウ アザミウマ類 ハモグリバエ類	2000倍	100~300 l / 10a	収穫前日まで	3回以内	散布	<b>4回以内</b> (定植時までの処理は1回以内、 定植後の処理は3回以内 (但し、株元灌水は1回以内))

その他の適用作物：キャベツ、はくさい、だいこん、ブロッコリー、レタス、**非結球レタス**、トマト、ミニトマト、きゅうり、ピーマン、いちご、えだまめ、だいず、たまねぎ、やまのいも、かんしょ、ばれいしょ、かぼちゃ、**アスパラガス**、**未成熟とうもろこし**、**にんじん**、**さいいんげん**、**オクラ**、**ししとう**、**たばこ**

▲ **効果・薬害等の注意**

- 使用前によく振ってから使用してください。
- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- 散布液調製後はできるだけ速やかに散布してください。
- アルカリ性の農薬や肥料との混用はさけてください。
- やむを得ず、他の薬剤と混用する場合には、事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。特に、銅剤との混用は薬害を生じるおそれがあるので、混用はしないでください。
- きゅうりに使用する場合、TPNを含む農薬との混用は薬害を生じるおそれがあるので、混用はしないでください。
- トマト及びミニトマトに使用する場合、薬害を生じるおそれがあるので、以下のことに注意してください。
  - ①アゾキシストロピンを含む農薬との混用はしないでください。
  - ②アゾキシストロピンを含む農薬を散布した場合には、散布後2週間以上間隔をあけて本剤を使用してください。
- はくさいに使用する場合、展着剤を加用すると薬害を生じる場合があるので、加用に当っては事前にその適否を確認してください。
- 使用液量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び使用方法に合わせて調節してください。
- 過度の連用を避け、可能な限り作用性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせて使用してください。
- つまみ菜・間引き菜には使用しないでください。
- 空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

▲ **安全使用上の注意**

- 誤飲などのないよう注意してください。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすしてください。
- 散布の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
- ミツバチに対して影響を与えるおそれがあるので、散布の際はミツバチ及び巣箱にかからないようにしてください。また、散布直後から1日後まではミツバチを散布区域外に移動させるか、巣門を閉じてください。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 密栓し、直射日光を避け、食品と区別して、冷涼な所に保管してください。

殺虫剤分類 **28**

殺虫剤抵抗性管理 (IRM)

一般推奨事項：薬剤抵抗性の急速な発達を防ぐために、同一作用機構を持つ製品を連続する複数の害虫世代間にわたって処理することは避けること。ブロック式ローテーション、即ち、ベネビア®ODまたは他のグループ28殺虫剤の「ブロック」の後に、異なる作用機構を持つ有効な殺虫剤処理の「ブロック」が続く形でローテーション使用すること。作付期間(播種から収穫まで)を通して適応されるすべての「グループ28使用ブロック」の合計暴露期間は作付期間の50%を超えてはならない。栽培期間の短い作物は1栽培期間を1ブロックとする。IPM手法の一環として防除体系に組み込むこと。

害虫の抵抗性、作用機構及びモニタリングに関する追加情報の参照サイト

- (1) Insecticide Resistance Action Committee (IRAC) ウェブサイト  
(http://www.irac-online.org)
- (2) http://www.fmc-japan.com/Agricultural-Solutions/IRAC

●ラベルをよく読んでください。 ●記載以外には使用しないでください。 ●小児の手の届く所には置かないでください。 ●空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。 ●防除日誌を記帳しましょう。

